

## 農道クリーンアップ作戦



作業も終盤、終わりが見えてくるとみんな元気になる (2月10日)

キレイになりました。  
参加の皆様、ありがとうございます。

農道の清掃作業は3週間連続で行いました。先月号でお伝えしたのは1月27日の作業でしたが、2月3日、そして10日と連続して行いました。  
3日には大森農道と、水路脇法面の雑草除去、10日には南北線と呼んでいる600メートル直線道路です。  
3日はあいにくの天候で、農道除草の終わりごろから雨が降り出してきました。しかし作業を止めるわけにはいかないのです。法面の除草作業に取り掛かりました。この法面は石垣となつて



石垣を踏み外すと水路の底に落ちてしまう

おり、高さもあるので、作業に苦勞します。そこで今回は手掛かりとなるロープやチェーンを用意して安全確保に配慮しました。  
10日に行った南北道は、前回までの

1.5倍の距離があります。この日は地区1・2・3班の共同作業も同時に行われたので、作業のスタート時には一部の参加者での取り掛かりとなりました。  
距離は長く、管理の状態も良くないので予定していた2時間では終わらないかもしれないと思っていましたが、みんなの気持ちがあつたので、まさに予定通りの時間で作業を終えることができました。  
昨年末からの通算では4回の作業を行いました。長年、こうした管理作業をしてこなかったのですが、風雨で洗われて、何とか体面を保ってきていました。今後はこうした管理作業を定期的に実施して、農環境の保全を確保していきたいと考えています。

### 送水管の状態は

榎野川の川床から吸い上げられた農業用水は延長180メートルの大径の送水管で配水路に送られています。

環境を守る会では送水管の状況を確認するために、毎年精密な測量を行っています。今年も2月10日に実施しました。



# 八方原地区 土壌の健康状態は

農林水産省の外郭団体である農研機構（国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構）は、食料・農業・農村が直面するさまざまな問題の解決と国民の期待する社会の実現を目指して、事業を進めています。

今回初めて八方原地区の農地を調査することになりました。2月22日、大森エリアの圃場の一部を小型パワーショベルで掘り下げたところに農業環境変動研究センター 上級研究員 大倉利明氏が直接に調査を行い、その様子

を公開しました。

大倉氏は土壌の専門家として明快な結果の説明をしてくれました。部分的な土壌調査を人の健康診断にたとえて、今回のような詳細な調査は「人間ドック」のようなものだと話してくれました。

掘削された土壌壁面に何本もの竹串が刺さっています。それは土壌のそれぞれの特徴を示す部分なのだと言明しました。隣接する河川の氾濫でできた砂礫の層もはつきりと分かりました

が、何度もあつたわけではありません。また河川の伏流水が農地に影響を与えていないかという点についても、水位の状況からその点も否定しました。常に水に使った状態だと土壌の一部は「還元」された状況になり青くなつて見えるのだと説明してくれました。



泥だらけになりながら、熱心な説明の大倉先生

表面の耕作土壌も肥料のやりすぎによる「メタボ」状態ではなく、その下のそれぞれの地層の水の流れなどから



先生の解説を聞こうとたくさんの方が集まった

「健康状態の良い圃場」という評価を頂いたようです。こういう専門家の生の声を聞かれるのはありがたいですね。

## マッチも七輪も学習教材

小郡地域の小学校3年生は昔の暮らしを知る学習で、「七輪で炭火おこし」を地域の大人と一緒に体験しました。マッチをすることも、なかなかうまくできない子もいますが、みんなで何とか火をおこして、お餅を焼いて食べました。マッチも炭も日ごろは使いませんからね。



「軍手」に「うちわ」いでたちは十分だけど

## 平成31年度の役員はどなたに

新年度の自治会役員の前には総会で「選考委員会」が設置され、その決定に従うというルールでしたが、いろいろな事情で選考委員会を開催しなくなり、事前に話し合いをして、次年度の役員を決めていく方式になっています。

しかし、あまり人気のあるものではなく、何とかやらずに済む方法はないかと、頭を巡らします。しかし、誰かがやらなくてはなりません。